

日本小児感染症学会若手会員研修会第3回安曇野セミナー

## 平成24年度安曇野セミナーに参加して

森 島 恒 雄\*

今年も多くの参加者の活発な意見交換が印象的な研修会でした。会を支えていただいた本学会研究・教育委員会の先生方、および長野県立こども病院の先生方に厚くお礼申し上げます。最近、国内のあちこちで、「安曇野セミナーに参加しています」、「参加したかったけど申し込みが遅かったのでだめでした。来年は行きます」などなど、若い研修医の先生から話を聞く機会が増えました。また、このセミナーの内容を形に（論文に）しているという機運も出ており、すばらしいことだと思います。

私は今回、厚生労働省インフルエンザ脳症研究班の活動の初期において、「強すぎるNSAIDsが脳症の予後の悪化につながる」臨床成績を得て、

メフェナム酸やジクロフェナク Na の小児の使用制限にどのようにつなげていったかの経過と、その後の基礎研究でそのメカニズムを明らかにしていった過程を、苦労話も含め話しました。10数年前のことですが、ただ「インフルエンザや小児感染症の発熱時にコレコレの解熱薬は使わない」、という事実だけが一人歩きすることの怖さを感じたからです。「病態を知れば、他への応用が利く」ということの重要性については、これからも啓蒙活動をしていきたい、いわば「語り部」の心境です。

この秋、激動の時期でしたが、2期4年の理事長の任期を無事終えることができました。この場をお借りして先生方のご支援を感謝いたします。

\* \* \*

---

\* 日本小児感染症学会前理事長/岡山大学大学院小児医科学